

講演会のご案内

Hegels Bildungstheorie und die moderne Bildungsforschung

ヘーゲルの人間形成理論と現代の人間形成研究

Prof.Dr. Lothar Wigger ローター・ヴィガー教授

(講演はドイツ語、日本語通訳あり)

日時：10月26日(水) 2:45-4:15 p.m.

場所：第2演習室(総合研究2号館1F)

コメンテーター：西平直(京都大学)

企画・司会・通訳：山名淳(京都大学)

主催：京都大学グローバルCOE

<講演者プロフィール>

【略歴】1953年生まれ。ボン大学において、教育学、哲学、社会科学を学ぶ。1981年、論文「行為論と教育学」によってボン大学で博士号を取得。1995年、ビーレフェルト大学において、教授資格論文「教育的論証の理論」を提出、受理。ヴェヒタ、ミュンスター、ミュンヘンの大学で教授職を歴任。2000年より、ドルトムント工科大学の教育科学・社会学部における一般教育学講座の教授。

【研究領域】主たる研究領域は、陶冶および教育の哲学、教育科学の理論基盤に関する考察、伝記にもとづく青少年研究、教育政策および教育改革の研究、一般教授学である。最近では、教育哲学的考察(重視しているカテゴリーは「陶冶」「承認」

「伝記」)を質的な実証研究と架橋することを、青少年研究の領域において試みている。具体的には、テキスト解釈の手法を基盤としたインタビューおよびその分析によって、青少年の世界観、自己認識、学校など彼らを取り巻く環境をめぐる問題などを考察している。

【主な刊行物】『陶冶、伝記、承認』2011年、『教育のディスコース』2008年、『反省的教育科学——ピエール・ブルデューとの関連における研究視角』2006年、他多数。



Lothar Wigger

Hegels Bildungstheorie und die moderne Bildungsforschung

In dem Vortrag wird zu Beginn der Ansatz der bildungstheoretischen Biografieforschung bei Winfried Marotzki aufgezeigt und versucht, einen kritischen Einwand gegen diesen Ansatz, wie Bildungsprozesse anhand biografischer Erzählungen konzeptualisiert werden, zu entwickeln, um die Richtung meiner weiteren Argumentation zu verdeutlichen. In einem zweiten Schritt wird an einige Gedanken von G.W.F. Hegel erinnern, die anschlussfähig und anregend für die Interpretation biografischer Erzählungen und die Rekonstruktion von Bildungsprozessen sind. In einem weiteren Schritt wird dann der Fall eines Jugendlichen vorgestellt, dessen Interview bildungstheoretisch interpretiert wird. Dieser Fall sperrt sich auf den ersten Blick gegen eine bildungstheoretische Interpretation, aber ist vielleicht deshalb gut geeignet, um über Möglichkeiten und Grenzen, Leistung und Reichweite bildungstheoretischer Deutung zu diskutieren.

講演者のヴィガー氏は、現在、哲学と実証科学とを架橋するという非常に刺激的な試みに取り組まれております。今回の講演では、そのような試みの一環として、伝記的な語りの解釈の問題をヘーゲルの哲学と結びつけて論じることが課題として設定されています。以下、ヴィガー氏本人の講演についての説明です。

「講演では、まずヴィンフリート・マロツキによる人間形成に関する伝記研究の試みを紹介します。そして、生い立ちについての語りにもとづいて人間形成の過程構成する彼の試みに対する批判を行い、この後に続く議論の方向性を明らかにします。次に、G.W.E.ヘーゲルの思想をとりあげ、彼の思想が伝記的な語りの解釈や人間形成過程の再構築にとって示唆を与えるものであることについて言及します。さらに、ある少年のケースをとりあげて、彼に対するインタビューを人間形成の理論にもとづいて解釈します。このケースは、一見したところ、人間形成理論的に解釈しえないようにみえるでしょう。けれども、まさにそれゆえに、人間形成理論的な意味づけの可能性と限界について、また、その成果と有効範囲について議論を行うためには、このケースは非常に適しているように思われます。」

*お問い合わせ先

山名 淳 内線：3072

(講演資料(独語および邦訳)がございます。ご希望の方はご連絡ください。)